

9月21日(日)・大会2日目 15:30~17:00 (C会場:17512教室)(90分)

## ●セッション【10】

### 「国際比較・共同研究の始め方・進め方、その面白さと勘どころ」

- \* 藤澤理恵(青山学院大学経営学部 准教授)
- 服部泰宏(神戸大学大学院経営学研究科 教授)
- 内藤知加恵(武蔵大学経済学部経営学科 准教授)
- 横内陳正 氏(神戸大学大学院人間発達環境学研究科 講師)

\* セッション・リーダー

## [ 概要 ]

本セッションは、大会委員会と主催校による共同企画・開催セッションです。グローバル化や多様化が進展する現代において、組織研究における国際比較研究や国際共同研究の重要性が一層高まっています。国際的な協働には大きな学術的価値がある一方、特有の難しさも存在すると考えられます。また、生成 AI 等による翻訳・校正ツールの利便性向上により、その重点が英語運用能力からテーマ設定やプロジェクト推進へと変化してきているようにも思われます。登壇者の実践は、アジアの研究チームでの質的量的研究(服部)、オーストラリアの研究チームでの質的量的研究(横内)、カナダの研究者との定性研究(内藤)、日米比較の定量研究(藤澤)と多様な地域・手法に及びます。本セッションでは、それぞれの経験からの実践知(立ち上げ、役割分担、クロージングなど)を共有します。

## [ 参加者へのメッセージ ]

国際比較・共同研究にご関心のある研究者の皆さまに、実践の第一歩の具体的なイメージを提供できるとよいと考えています。より面白い研究、私たちの「アジア的な視点」を効果的に生かす研究の機会として、あまり身構えることなく一步を踏み出したことが登壇者の共通点のように思われます。一方、現場で起こっている具体的な困難さや乗り越える工夫についても(もちろん楽しさや面白さについても)お話したいと思います。時間の都合上、分析手法や方法論の詳細に触れることは難しいだろうと思います。また、登壇者はどちらかといえば若手を中心とする構成ですので、国際比較・共同研究のご経験が豊富なご参加者から、登壇者や他参加者へのアドバイスをいただくことができれば大変ありがたいと思います。